



手話を通して黙うこと  
 藤崎小学校六年  
 ほくが二年生の頃だ。たとえ思ひ  
 ます。毎時、テレビのニュースを  
 見て、手を複雑に動かして、  
 ニサリのしゃべり声と、アナウンサーの声と  
 が、いま少し手を動かして、  
 いた。誰かに聞こえようと、アナウンターにた  
 運悪く近くに誰もいませんでした。同じ時間帯にま  
 た。今度は二。  
 ェ日後、同じ時間帯にまた同じ時間帯にま  
 した。誰かに聞こえようとしました。なぜんてし  
 け手を動かして、見てる臺灣に気づきましたが、  
 いた。誰かに聞こえようとしました。なぜんてし  
 ました。今度は二。

ので、さうな動きをして、父さんは動きをし  
 た。その場に立ち、テレビの音が止んだ。  
 説はなーい。それは何なのが、もんせーい。  
 一度聞きましめた。手話をとめました。手話をと  
 ましまして。手話をとめました。手話をとめました。  
 しゅうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじ  
 すら方法のことをね? うたんたんたんたん  
 ここの時、はじめはじめはじめはじめはじめ  
 を知りました。世の中にはこんな存在

の もあ る の か と 二 年 生 の 自 分 は  
お じろ き まし た 。  
六 年 生 に な まし た 。 手 語 の 学 習 を す  
る こ と に な まし た 。  
耳 が 開 こ ん な い と は ど う い う 事 な  
の か 、 考 え て み まし た 。 ほく は ま す。  
に は 、 耳 の 不 自 由 な 人 が い な  
て 、 伸 人 で 耳 の 不 自 由 な 人 が い な  
川 が 、 図 書 室 に 行 つ て 調 ベ ト み ま す  
し た 。 ヘ レ ン ケ ラ ー の 事 は 、 知 つ  
て い ま し た が 、 音 楽 家 の ヘ ー ト ベ  
シ も 耳 が 不 自 由 だ 、 た 事 は 知 つ  
せ ん て し た 。 耳 が 開 こ ん な く て も  
心 が 打 つ 曲 を 作 曲 で ま で 、 素 晴 り  
し い と 思 い ま し た 。 も し 自 分 が 、

耳 が 開 こ ん な く な た り 、 好 き な  
鉄 道 の 音 も 開 け な く な る ロ バ ン  
の 読 上 章 も で き な く な る  
し 一 の こ と 得 て ま る  
も し 本 当 に そ う な く な る ロ バ ン  
た り し も 唯 一 の こ と 得 て ま る  
事 は 、 考 え て み ま す 。  
耳 が 不 自 由 な 人 が い ち ば 考 え る だ け 怖 く  
事 は 、 相 手 と こ そ 二 ユ ニ ハ 一 ニ ヨ  
シ と ど る 事 だ と 思 い ま す 。  
自 由 な ふ ん が 続 か な い と い う 分 が  
あ り ま す 。 そ ん な こ そ ニ ュ ハ 一 ニ ヨ  
の が 、 一 手 語 で す 。  
手 語 と は 、

耳や口の不自由なトのためには  
 声のかわりに手の動きや身ぶりと音  
 利用してことばを伝える手法の  
 事です。社会には様々なトがありま  
 す。いろいろなト達とコミュニケーション  
 ハーネシヨンをして、いそゞな  
 人達の事を知るにめも、手話を  
 学習する事にじめに覚えたのが、  
 まおはじめに覚えたのが、数を  
 累計する手話です。数を表す手話も  
 えりて日にちを手話で表す事が  
 できます。僕達は朝の会で毎日  
 日にちを手話で表していきます。  
 じめはスムーズにできませんでした  
 しましたが、毎日やつらと先生  
 したが、毎日やつらと先生

よりも上手にできるようになります。  
 総合的な学習の時間だけ手話  
 を使うのではなく、毎日続ける  
 う事が分かってました。  
 僕達は、もうひと手話を覚えた  
 と思ふまうにならひました。古川先生と山  
 先生です。総合的な学習の時間  
 に、二人の先生から、手話を習ふこと  
 ました。はじめて習ったのがあのとき  
 さつの仕方です。おはようござ  
 いました。「こんちちは」とい  
 いはんはーを手話で教えてもら  
 ました。毎日やつらと一緒に手話で教  
 えてもらいました。

まじた。自此の手話を自分で  
 もやつてあるうちに、手話を一つ一  
 つに意味がある事を感づました。  
 例えばおはようであれば、まくら  
 から顔をはなします。またに朝  
 起きにとさの状態と同じです。  
 う考えると、手話を覚えるには  
 状態や意味を理解する覚えやす  
 いなまと思いまして。次に覚えた  
 のが、指文字です。指文字と覚  
 ると、自分の名前を手語で表せ  
 ようになります。五十音を指文字  
 で覚えてから、自分の名前を手語  
 で表現してみましたが、僕の名前  
 は簡単な「佐木」です。僕は「佐  
 木」という名前を手語で覚えた  
 事ができます。

次郎の背中から刀をとる様子で、  
 表現しました。僕は「手話」の面白  
 いなあと思いました。周りの友達  
 も手話で書中で表現してしまった  
 手話には不思議な魅力がありま  
 せどと覚えた「佐木」が、次に「う  
 ら」たのが歌を手語で表現する  
 方法です。「あわてんぼう」のサ  
 ティー口一スレと「花は咲く」で表  
 す。月口一スレと「花は咲く」で表  
 す。

現すものとでも覚えやすがた  
です。  
先日、福祉につけての本を読む  
機会がありまして。その中に、僕達  
達がドームや歌を通して手話を  
覚えて“る事を、耳の不自由なト  
リました。耳の不自由なトがと聞  
て最近は“る事も“る事がと聞  
いしんでいふとつでますが、ただ樂  
の不自由なトの事をも”と理解し  
てくからようになると“ると思  
ます。”と答えて“ましに。僕は元  
水を聞いて遊び半分で手話を覚  
えます。

手話で遊んだり楽しんだりするの  
は、よくまで手話を覚えただ  
だと“うのを忘れてはいけない、  
と思いまして。僕達が手話を覚え  
るのは、耳が不自由な人達の生活  
を少しでも理解したり、考へて“  
ることを、常に思つて“なけ水ば  
けなどと思“ます。多くの人と  
えて手話を覚えていくと、世界が考  
えがり、樂しいと思“ます。みんな  
さんも手話を覚えてみませんか。

藤崎小学校六年相馬詩は  
二バナルディザインと  
ばくたちの藤崎小学校に全校  
で福祉について勉強しています。  
六年生は、外國と日本の福祉のち  
福祉につけたソーティ語にて学  
んで福祉にまつわること  
にしました。最後に、自分が  
の中に、道具を使ふ福祉といふ  
組みがあります。ほくは、お年寄  
りや体の不自由な人が入るところ  
に道具を手助けします。ほくは、  
福祉の取り組みに興味を持った事につ  
いて調べました。新聞にまとめるこ  
とにしました。最後に、自分があ  
福祉にまつわることについて興味を持  
った事に自分の福祉のち

お年守りまでの年水いの  
ほく達の周りには、子どもが  
ての人が安心して、幸せに暮らせ  
どいろいろな人がいます。その全  
ての人が安心して、幸せに暮らせ  
る社会にならなければいけません。  
けけれども、一歩町に出ると、道路に  
寝起きがあたりなど様々なかべがあります。  
ほくは、その様々なかべがありま  
す。ほくは、克服できなあかと考  
えました。上アーティストで、その様  
た。ほくは、それを道具にし

サルデガイン」という言葉です。  
 全ての人があ空心して快適に暮らせます。  
 新しい建物や製品をつくろうとし  
 た時、その企画のはじめからいろ  
 いろな人がいることを考えたらうえ  
 でデザインをします。また、使う  
 人が、使い方を自由に選べること  
 も大きな特徴です。  
 人たとえは、工場へ駆け  
 所に詰置されていって、どれを使  
 ふことができます。  
 か自由に選ぶこととができます。  
 くはそれを知りません。  
 くはそれを知りません。

まだなと思ひました。  
 へだてなく公平に感じたれどが  
 ほくは、「ユーラボールヘルペンを紹介したい  
 と思います。このボールペニクリヤンは、ま  
 左右どちらの手でも使えます。  
 た、手の力が弱い人も、筆圧に関  
 係なくきれいで書きこなすことができます。  
 えてかいたり、足の指に力が弱い人は、筆  
 す。手や指の方に書くことができま  
 す。筆圧に関  
 て、手のことなどができま  
 す。  
 思わぬ時別な道具では無いのがいいの  
 にはあります。  
 見やんには見えない、おもちゃの  
 の一

よりながら一ヶ月であります。ほくはこのデザイナーを考えました。使用者がすばらしくこのことを思いました。使用者が伝わってきます。障

のことを思いやして、デザイナーが伝えます。障

かいのあるなしにかかるからず、

んなが使えることが、一番大事だ

と思いました。

はじめから、みんなにやさしい

だれもが安心して社会を作ること

ができたら障

かいと意識せずに暮らすこと

きると思います。そのためには、

常に利用者の意見を取

り入れる事

が大事だと思ひます。どこが不便なのかを具体的に聞くこと。そしてその意見を取

りに良い物ができると思っていくと、さ

す。  
入れ道具を改めてしていくと、さ

らにより良い物ができると思いま

す。  
事は、ほくが、いろいろ調べて、社会にはいろいろな人がいた

るとして、お年寄りや障がいの人

はどしだこと、年寄りや障がいの人

るのか想像することに不便を感じてい

る。それからユニバーサルデザインに

よるとこんな道具が出るのが注目し

ています。

世界に目をむけることで  
藤崎小学校六年木村つばさ

「先生が、  
みなさんは、福祉についで勉強  
していりますが、世界にもいろい  
ろな福祉活動があることを知っ  
ていました。私は、「世界の福祉  
について何も知らないな」と思い、  
ました。そこで、世界の福祉にま  
ましいと感じた。

まず図書室に行つて、世界につけ  
て調べてみることにしました。  
みんな福祉活動があることを知っ  
てました。目にとひこんできたの  
が調べて世界には

は英語で書かれた名前でした。  
界にもたくさんの福祉活動がありま  
せした。世界中には病気で苦し  
んでいる子どもたち、紛争に巻きこ  
まれて行き場がないなくなり、た人たち、  
どちらかが救あうと活動しています。その人  
たちを何とか救あうと活動してい  
る機関がありました。この機関は、UNICEF  
です。これは、ユニセフです。  
弱い立場にある人々を国連社会的支援に  
していって、特に子どもたちのため支援し  
ます。ニセフは、ユニセフと読  
ます。このユニセフは、社会的支援に

史を調べると、一九四六年に国連  
 でつくられたのがはじまりでした。  
 まづかけは、一九四五年に終わ  
 た第二次世界大戦でした。この戦  
 争により多くの子どもが家族や住  
 まい家を失いました。また、国が戦  
 爭で大きな被害を受け、食糧不足  
 による飢餓に苦しんだり、医りよ  
 うや衛生が悪くなり、子どもたち  
 に病気になりました。その数は、  
 さんいまして二千万人にものぼ  
 ッハだけて三千人と多く  
 といわれています。そ  
 もたちに 대해서い  
 くられました。  
 おもての緊急な援助活動を目的とし  
 てつくる緊急な援助活動を実現しました。

九四年から一九六年の十五年  
 まいた。私は社会の時間に、太平  
 洋戦争で多くのきせい者が出たこ  
 とに学習しました。あの敗戦のな  
 かでユニセフに援助してもらって  
 いたのを知っています。私はユニセフは  
 どんな人でも平等に手をさしのべ  
 てくれる機関なんだなあと思いま  
 した。そのおかげで日本人は、いま  
 ちはやく復興できただのと思いま  
 した。次に日にとびこんできたのは、  
 UNESCOMという機関です。

こ  
れ  
は  
『  
ユ  
ネ  
ス  
コ  
』  
と  
言  
い  
ま  
す。  
こ  
の  
ユ  
ネ  
ス  
コ  
は  
第  
二  
次  
世  
界  
大  
戦  
後  
に、  
二  
度  
と  
戦  
争  
を  
くり  
か  
え  
さ  
な  
い  
と  
の  
願  
い  
を  
こ  
め  
て  
つ  
く  
ら  
れ  
ま  
し  
た。  
一  
九  
四  
六  
年  
に  
發  
足  
し、  
本  
部  
は  
フ  
ラ  
ン  
ス  
の  
パ  
リ  
に  
あ  
り  
ま  
す。  
ユ  
ネ  
ス  
コ  
は  
特  
に  
教  
育  
、  
科  
學  
、  
文  
化  
に  
特  
に  
力  
を  
入  
れ  
て  
い  
ま  
す。  
私  
も  
よ  
く  
し  
る  
世  
界  
遺  
產  
も、  
ユ  
ネ  
ス  
コ  
が  
登  
録  
し  
て  
保  
護  
し  
て  
い  
ま  
す。  
日  
本  
で  
は  
當  
たり  
前  
に  
小  
学  
校  
は  
六  
年  
間  
、  
は  
三  
年  
間  
と  
い  
う  
教  
育  
を  
受  
け  
て  
い  
ま  
す。  
私  
は  
学  
校  
に  
行  
っ  
て  
勉  
強  
し  
た  
り、  
友  
達  
と  
遊  
ぶ  
け  
ら  
れ  
て  
い  
ま  
す。  
を  
義  
務  
と  
い  
う  
教  
育  
を  
受  
け  
て  
い  
ま  
す。  
こ  
と  
が  
当  
た  
り  
前  
に  
な  
っ  
て

で  
い  
て、  
学  
校  
外  
で  
な  
い  
生  
活  
な  
ん  
て  
考  
え  
る  
に  
親  
し  
む  
こ  
と  
が  
必  
要  
だ  
と  
い  
う  
考  
え  
み  
ん  
な  
が  
教  
育  
を  
受  
け  
、  
科  
學  
や  
文  
化  
提  
供  
す  
る  
「  
世  
界  
寺  
子  
屋  
運  
動  
」  
を  
義  
務  
づ  
け  
ら  
れ  
て  
い  
ま  
す。  
た  
リ  
前  
に  
小  
学  
校  
は  
六  
年  
間  
、  
は  
三  
年  
間  
と  
い  
う  
教  
育  
を  
受  
け  
て  
い  
ま  
す。  
私  
は  
学  
校  
に  
行  
っ  
て  
勉  
強  
し  
た  
り、  
友  
達  
と  
遊  
ぶ  
け  
ら  
れ  
て  
い  
ま  
す。  
を  
義  
務  
と  
い  
う  
教  
育  
を  
受  
け  
て  
い  
ま  
す。  
こ  
と  
が  
当  
た  
り  
前  
に  
な  
っ  
て

で活動していいと私はとても必要  
な機関だなあと思いました。  
次に調べたのは「赤十字社」に  
ついてです。赤十字社は世界百八  
十六が国の中にあります。日本に  
もあり紛争や災害が発生した際に、  
資金や物資、人員をおくなどの  
活動をおこなっていきます。また、  
支援するためのほ金もしていきます。  
和たちは直接外国に行つて、支援  
活動をおこなうことは難しいこと  
ですが、生活用品や文房具を外  
国に送りたり、金で資金活動援助  
をしたりすることはできまます。  
世界の福祉について勉強するこ

とによつて改めて日本は幸せな  
国だなあと感じることができまし  
た。この豊かで幸運な日本の國も、  
ユニセフやユネスコ、赤十字社な  
どさまざまな福祉活動の考え方  
と同じで、世界と同じように福祉活  
動に力を入れています。小学生の  
私には今、世界で困つている人た  
ちのために何ができるのかよくわ  
かりません。けれども、ほ金やボ  
ランティアなどの小さなことは  
きります。今は、私たちに大事なのは、  
この幸せに満足することなく、世  
界の国々や地域の状況を知つたり  
学んだりすることです。私は、世



界	の
な	状
求	況
る	を
第	知
一	るこ
歩	と
だ	が
と思	福
い	社
ま	活
す。	動



板橋さんと出合って  
藤崎小学校六年  
佐々木成美  
私達の学校では、九月に畠田の  
口一ジシヤン、板橋がすやすや  
んを招いて、コシサートを開きました。  
実は、私達六年生が「畠田」と  
いう言葉を耳にするのは初めてで  
はありません。それは、前に福祉  
短期大学をたずね、「畠田」の体  
験したことがあるのです。  
アイマスクをつけた藤崎、何も  
かも見えなくなつて、不意に英  
博さんがやってきました。すると、

かべの場所は?階段の段数は?  
ど、どうい?二、階段は腰にかけ  
ない場所が気にならぬか?私はこの経験を通じて、どんな  
一人では歩き難いなど感心せ  
た。  
「うしろ不安をやらせられために  
は、サボーターの方が必要なで  
いた。右に曲がります」「階段を上が  
ります」「そういふ声が田中、田  
の不自由な人にとつて「光」にな  
ることになりました。  
その時のもううしと西川から、  
私がつたらもう、聽えうやるでし  
かと、もういいつた井筒

を送)。でいる人が現実にいるとは、う」とき私達は受けとめなくてはなりません。

そして、コンサート当日。私はいよいよ板橋さんに会えると思いつつ、ワクワクしていました。どんな歌声なんだろ、どんな人なんだろ、う、と、ずっと思つていたからです。

また、私には大きな役目がありました。それは、板橋さんに花束をあげますといつ贈ります。だから、向から板橋さんに会うのを楽しみにしていました。

「コンサートが始まりました。私は

は、板橋さんが教師先生の手を取りてやがて入ってくるのが見て(本当に見えたないんだな)と、改めて思いました。田は見えなくして、もし、かりとした足どり、優しそうな笑顔がら、私はとても田が見えない人に見えるな、と感じました。

板橋さんはステージに上がりると、ます、学年ごとの返事を求ねました。それは、どの学年がどこにいるのかを、把握するためのものでした。私はその時、「田で見えないのなら、声で伝えねば」という事に気がつきました。だから、

精い。ぱい、私達の歌持ちを詠で  
伝えよう。と。  
板橋さんか歌つた曲も、私の知  
らない曲はかりで、とにかく、どれも  
心に響くものばかりでした。特に、  
私が歌に入った曲は、「大丈夫」  
といつ曲です。そこには、聞のか  
でも、不難に耐えながらたくまし  
く生きる、板橋さんの生涯が描か  
れていました。私は、その曲を聞  
いて、心の中にある何が動かさ  
れました。「どんな時も、生きら  
めてはいけない。きっと大丈夫。」  
乗りこえらねる。そういったメロ  
セージに心が動かされた。

トーケンの間では、日々大講義  
学びました。「聴」ということには自  
由見えない事を學やんじ師、「  
自分だけ選うこと」に悩やんでいた  
博、「四年級を幾えて上級」……。  
など、たゞ一人の貴重な体験談を  
聞きました。「ある日突然、朝から  
前の博がでかけてはしなり……」  
そういう思いが頭の中によぎりま  
した。考えるだけでゾッとしました。  
もちろん、なぜ、困たけではなく、  
耳・手・足などをどの部分の障害  
につけても言ふことですか。だから  
う板橋は、自由な体に生まれた人  
と心感應してから生きてこられて

だ」と即ち「も。」  
で、そんたな「田舎者じやない  
状況の日で、明るく、田舎らしく、  
そして面向きに生きる燃焼せんせい。  
すじこと感ります。

それなのに私達は、毎日、くだら  
らない事で落ち込んで……なんだ  
か情けなくなりました。板橋さん  
は、私達の十倍も、四倍もの苦し  
みに耐えてきたんだなと、改めて  
思いました。

そして、いよいよ板橋を渡り、  
やつれておきました。

ステージに上がるに、板橋さん  
は私の居場所を一生懸命把握し

うとしてくんで、とてが離れて  
黙然な板橋さんの人柄が見えてき  
ました。今、その私の気持ちを伝えよう。  
そう思い、私は声をしました。  
「今日は、本当にありがとう？」  
私は圓卓で花束をゆっくりと渡  
しました。すると、板橋さんは  
「ありがとうございます。」  
そう、一言、語りました。板橋  
さんは、私の方を見ていました。  
したが、私は、はつきりと語  
いでいる様子が伝わってきてしまふ。  
そして、最後に握手。その手は

と  
 て  
 も  
 あ  
 ま  
 た  
 が  
 く、  
 板  
 幸  
 さん  
 の  
 人  
 福  
 祀  
 を  
 の  
 そ  
 ん  
 て  
 い  
 も  
 う  
 で  
 し  
 て  
 い  
 る  
 ま  
 し  
 た。  
 福  
 祀  
 に  
 は  
 ま  
 し  
 た。

